

令和5年度宮城県済生会みやぎ乳児院事業報告

乳児院

① 乳児院事業全般

「済生会創設の精神のもとに、児童を取り巻く社会情勢の変化に柔軟に対応し、子どもが大人に守られ、大切にされ、安心して生活できる開かれた安全な養育環境を整え、入所児童の生命と人権を守り、健やかな成長を支援する」という理念の下に保育目標・保育方針・運営方針・保育計画に沿って、日々の養育に細心の注意を払って子どもたちを観察し、よりよい保育を目指すとともに、子どもたちが日々心健やかに成長するよう、常に処遇の向上に努めている。

施設内における入所児童へのマルトリートメントの防止と発生時の対応についても引き続き、全職員での共有を図り、処遇意識の向上に努めた。

5年度は、新施設への移転とそれに伴う小規模グループケアへの移行等により、子どもたちも職員も非常に慌ただしい期間を過ごしてきたが、職員の丁寧な対応により、年末の頃には落ち着いた生活を過ごすことができるようになってきた。

② 入所児童の状況

イ 入所状況

令和5年度中に措置入所した児童は、16人で、その入所理由は虐待 8人、経済的困窮 1人、家庭事情 2人、保護者障害・疾病 4人、母未婚の出産 1人であった。

○措置実績

(延人数)

令和5年度			令和4年度		
仙台市	宮城県	計	仙台市	宮城県	計
3,988	3,837	7,825	4,479	4,020	8,499

ロ 児童処遇の状況

令和5年度の在籍(取扱い)児童数は、措置児童が37名であった。措置児童の入所理由は、半数の19名が虐待を理由とした入所となっており、何らかのこころの傷を負った乳幼児が多くなっている。このような状況に対応し、家庭支援専門相談員が入所児童のアセスメント会議を開催し、支援職員(心理職員、相談職員、栄養管理職員、個別対応職員など)と担当職員とでアセスメントを行い、児童への支援方針の決定及び担当職員への助言や指導を行い、適正な処遇に努めた。(アセスメント会議; 20回開催)

さらに、虐待等による課題を抱える児童に対しては、心理職員による遊戯療法(延74回)を行うほか、児童精神科医とスーパーバイズ契約を締結し、毎月心理職員へのスーパーバイズ(12回)を行った。また、発達の支援としては、療育的アプローチ(21回)を行った。

ハ 児童の栄養管理・給食

入所児童の発達状況や体調を把握し、個々の児童に合った食事の提供を行っている。食物アレルギーのある児童に対しては、医師の指導の下でアレルギー対応食の提供を行った。また、季節に合わせて行事食を提供し、日々の生活の中でも変化のある食事提供を行っている。

移転後には調理員によるホームへの出張調理を行い、子どもたちの目の前で調理し、子どもたちに喜ばれていた。

ニ 児童の健康管理

移転後には、新型コロナウイルス感染症の感染はなく、若干の感染症が部屋ごとに発生していた。対応としてはホーム間の移動や感染児の隔離や対応により、他ホームへの拡大を防止した。新施設ではホーム間の隔離がしっかりできるため、比較的適切な対応が可能となっている。

フリーの看護師を毎日配置し、入所児童全体の健康観察を実施し、体調管理を行った。さらに、医療連携担当看護師が病虚弱児の通院介助や医師の診察支援等を行い、他職種へ

の体調に関する情報を的確に伝え、連携を密に行った。

【入所児の延べ通院回数（こどもクリニック通院含む）； 407回】

ホ 退所状況

当院の入所児は、親からの分離体験を持ち、加えて虐待体験を経ての入所児がいる。当院における生活により担当養育者との愛着関係を構築しているものの、当院を退所することは再び分離体験をすることとなる。

したがって、退所にあたっては、十分なケアのもとに次の養育者に引き継ぐことを目指している。家庭養育や家庭的養育の里親委託が図られるよう、児童相談所と連携し、担当養育者が中心となり、家庭支援あるいは里親支援の専門相談員及び心理職員が協力（多職種連携）し、退所の促進に取り組んだ。

退所時には、看護師による予防接種、乳幼児健診、病気や通院の内容説明等を実施し、さらに栄養管理職員による保護者・里親への食事相談などを実施した。

令和5年度中に退所した児童は14人で、家庭復帰 4人、他施設 4人、里親委託 6人であった。

へ 病虚弱児加算対象児の受け入れ

疾病や障害により、援助が必要な病虚弱児を受け入れた。

令和5年度は延人数で145人であった。

③ 一時保護受託事業

児童福祉法第33条に基づき児童相談所長が行う一時保護を受託した。令和5年度の一時保護児童の受入（取扱い）児童数は、31名となり、9名が当院への措置入所となった。

○ 受託実績 (延人数)

令和5年度			令和4年度		
仙台市	宮城県	計	仙台市	宮城県	計
788	917	1,705	1,486	624	2,120

④ 子育て支援ショートステイ事業（第二種社会福祉事業、仙台市委託事業）

家庭で子どもの養育が一時的に困難になった時に子どもを預かる仙台市の事業を受託した。

○ 利用実績 (延人数)

令和5年度			令和4年度		
2歳未満児	2歳以上児	計	2歳未満児	2歳以上児	計
21	2	23	26	3	29

⑤ 里親レスパイト受託（県中央児童相談所からの要請）

当院から里親委託している児童について、里親の事情によりレスパイトの希望があり、延21日間受託した。

⑥ 病児・病後児保育事業

病児・病後児保育こどもケアルームは、令和4年度まで診療所（宮城県済生会こどもクリニック）併設型で行ってきたが、新施設への移転を念頭に、令和5年度から乳児院（宮城県済生会乳児院）併設型に移行した。富谷市、利府町、大衡村からの受託と、宮城県済生会の単独事業として、その他の市町村を対象に実施している。子育て支援事業の一環として、病気や事故、出産、冠婚葬祭などで保育所や家庭保育が困難な病児・病後児を対象に保育を行っており、周辺市町村への広報活動を継続的に行い、今後も利活用の促進に努める。

○ 利用実績

(単位：人)

市町名	利用者延人数	
	令和5年度	令和4年度
仙台市	75	185
富谷市	46	0
利府町	1	1
済生会	5	0
計	127	186

⑦ 自己評価の実施

イ 評価実施期間 令和5年11月15日から令和5年12月15日

ロ 総評

(評価の高い点)

- ・小舎制になり家庭に近い環境になったことで、特に課題だった入浴、排せつ、睡眠に関する養育環境が改善されてきた。
- ・施設運営や事業計画に関しては文書による説明を受けたことで、職員各自の意識が高まった。
- ・養育担当職員と各専門職員がアセスメントや情報を共有し丁寧に保護者と関わる中で、保護者が意見を述べやすい体制が確保されてきた。
- ・市町村との連携強化を図るための要保護児童対策地域協議会への参加や、聞き取り調査及び訪問活動を通して関係機関とのかかわりを構築している。

(改善が求められる点)

- ・食事の提供の仕方や子どもたちが自由に玩具を手にする態勢をさらに整えていく。
- ・地域との連携、目標管理制度の構築、児童記録の電子化、人材育成制度は今後も検討していく。

⑧ 各種行事

イ 各種会議の開催

会議名	出席者	内容	開催回数
職員会議	職員	施設運営に関する職員の情報共有等研修会	11回
支援会議(全体)	施設長, 副施設長, 支援職員, 養育担当職員	各児童の発達状況や注意事項を確認し, 養育担当職員が共有する	12回
アセスメント会議		支援職員と担当職員が, 児童のアセスメントを行い, 支援方針の決定や指導・助言等を行い, 当該児童の処遇方向を共有する	20回
看護職員会議	看護職員	入所児の健康管理及び感染等防止対策の検討	6回
リーダー会議	副施設長, 各リーダー	入所児養育支援の企画検討 ユニット間の情報共有	6回
評価委員会	施設長ほか	開催案件無し	
安全管理委員会	副施設長, リーダーほか	事故防止対策及び安全計画の検討	6回
広報委員会	広報委員	広報誌の企画, 編集 乳児院の広報・取材対応	5回

給食委員会	施設長, 栄養士, 調理員, 直接処遇職員	給食の位置づけ及び目標を定め, 給食運営が適切に行われているかの検討。食事についての諸問題を検討	10 回
衛生委員会	看護リーダー 看護職員	感染症予防対策, 衛生管理, ほか	6 回
運営委員会	施設長 副施設長 各専門職 ユニットリーダー	乳児院の運営全般についての企画, 事業の進行・管理等を行っていく。各委員の担当業務や委員会からの報告	10 回
ホーム会議	各ホーム職員	各ホームの運営や子どもに関する情報共有	29 回

ロ 各種研修への参加

主 催	研 修 名
済生会本部	済生会総会
済生会乳児院協議会	乳児院連絡協議会
乳児福祉協議会	全国 乳児院上級職員セミナー 全国乳児院研修会 乳児院医療・看護セミナー 全国乳児院協議会
	ブロック 東北・北海道ブロック乳児院研究協議会
全国社会福祉協議会 宮城県社会福祉協議会	F S W研修会 新任職員研修 令和5年度社会福祉施設等経営研修
宮城県 仙台市	
児童相談所	児童虐待対応職員研修会 児童相談所職員拡大研修
自主研修	救命救急法 夜間緊急事態訓練
その他 ・富谷市 ・みやぎ里親支援センターけやき ・ファミリーネットみもり ・子どもの虹情報センター ・日本福祉大学フォスタリング機関 ・日本福祉大学地域ブロックセンター ・東北ブロック児童養護施設協議会	富谷市児童虐待防止連絡協議会実務者研修 令和5年度関係機関職員向け研修 2回 子育て講座 乳児院指導者研修 児童福祉施設心理担当職員合同研修 R5年度里親養育包括機関人材養成プログラム 社会的養護講座 全14回 東北ブロック児童養護施設専門職員研修会

ハ 院内行事

(全体)

こどもの日お祝い(5月), 七夕祭り(7月), 七五三参り: 護国神社(11月), クリスマス会(12月), 節分(2月) その他各月ごとに誕生会を実施した。

(ホーム)

ハロウィン(10月), ひなまつり(3月), お別れ会(3月)

ニ 院外行事

(全体) 八木山動物公園(5月), 新施設訪問(8月)

(ホーム) アンパンマンミュージアム(2月)

ホ 防火・防災訓練

令和5年度は、職員・児を入れた昼間、夜間想定 of 火災発生時避難訓練を計5回（法廷訓練1回、任意4回）実施した。同様に夜間想定 of 地震発生時避難訓練（任意）を計4回実施した。また、夜間想定 of 乳幼児無呼吸時対応訓練を任意訓練時に8回実施している。月1回を目標に訓練を計画・実施してきたが、感染症の拡大や施設移転等の要因から実施することができない月があった。

⑨ 広報

イ 乳児院の広報誌「まんまる」の発行を年4回行い、保護者や関係機関等に送付し、院内活動や行事における子どもたちの様子をお知らせした。

ロ ホームページにより行事活動を逐次広報することにより、乳児院の仕事内容の周知を図るとともに職員募集へ効果的に結び付けた。

⑩ その他

イ 実習生の受入れ 【5年度は実習生の受け入れを中止】

ロ 里親研修の受入れ

- ・登録前里親研修（2日間） 7回 9組（15名参加）
- ・里親更新研修（1日） なし

ハ 施設見学の受入れ

・他施設訪問調査

視察2か所（大阪府済生会乳児院 丘の家乳幼児ホーム）

・施設見学（一般・学生）受け入れ

学生見学（保育士志望者） 7名 うち3名採用

一般見学（保育士 看護師）8名 うち3名採用（保育士2名 看護師1名）

その他

丘の家乳幼児ホーム 3名

県北部児童相談所

仙台市児童相談所 16名（2回に分けて）

富谷市主任児童委員 4名

東北大学医学部 周産母子センター 3名

母子生活支援施設 宮城県コスモスハウス 5名

一般社団法人ぐるーん 3名